

午後1時30分 開始

【広報広聴課長】 ただいまより、定刻となりましたので、11月市長定例記者会見を始めさせていただきます。

毎回申し上げておりますが、この会見につきましては、市のホームページ上で公開するなどにより録音をいたしております。発言の内容をより鮮明にするために、発言の場合は必ずお手元のマイクを通して発言をお願いいたしたいと思います。

本日の進行につきましては、お手元の次第のとおり、最初に市長のあいさつ、その後、事業等の発表をいたします。質問につきましては、最初は事業発表についてお願いいたしたいと思います。事業発表の質疑終了の後に、次第の3番目フリーの質疑応答へと進行したく思っております。

終了は14時30分を予定いたしております。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

【市長】 それでは、11月の定例記者会見でございます。

もう9日になってしましまして、月初めから中国の琿春と延吉と長春というところへ訪問いたしておりました。これまた後ほど触れますけれども、ご承知のとおり中国との新航路開設ということもございまして、いろいろ商工会議所を中心とする民間の経済団体の皆さん方とともに訪中をしてきたところでございます。また後ほど報告をさせていただきます。

ということで、9日になってしまったわけでございますけれども、行っている中途に日本シリーズも終わってしましまして、予定どおりジャイアンツが優勝したというようなことで、少しは景気が良くなったかなと思っておりますが、なかなか経済状況も冷え切っているようであります。また、政権も交代になって、いろいろな話題が多く出ているようでございますけれども、地方は地方としてしっかりとこれからも頑張っていきたい、このように思っております。

それでは、あと座って発表させていただきます。

まず、発表項目についてであります。

1番目、緊急地震速報の配信試験の実施ということであります。

いよいよ来年からすべての家庭に緊急告知機能付きのFMラジオ、これは全体はまだやね。今それぞれの施設には完了しておりますので、その受信機が自動起動するかを実験いたします。そして来年にはすべての家庭に配置をし、いざというときに備えたい、このように思っているところでございます。

次、2番目であります。

開港記念シンポジウム、今年のご承知のとおり開港110年ということでございまして、それでシンポジウムを開催するわけであります。11月14日土曜日午後2時から5時30分の予定で開催をいたします。細かい内容については、そこに記載のとおりでございます。

それで、先ほど触れました中国との航路ということで、いろいろ琿春の市長初め、関係の皆さん方とお話をしてまいりました。確かに中国の東北部というのは、非常に人件費も安いということでありました。物価的にもかなり安い。私もびっくりしました。マーケットへ行って、ちょうどこちら解禁になりましたけれども、このぐらいのズワイガニがどんといっぱい置いてありまして、幾らと聞いたら10元というんですね。大体140円なんです。このぐらいの生で売っているカニが。たくさん仕入れてきて、これはいい商売になるなと思うぐらいに物価がやはり安い。

人件費も大体あのあたりですと1000元、月給です。1000元ですから、大体1万4000円ぐらいの人件費ということで、そういう面では非常に今の中国の沿海部から比べると、かなりそういう面では安い。私どもと一緒に行了きました企業の皆さん方は、これはいいな、一度進出も考えたいというような方もいらっしゃるかもしれませんが、そういう意味で中国政府も今そういう、あそこは朝鮮族自治区というんですか、延吉であり、琿春であり、長春はその外れになりますが、そういう自治区としてもそういう企業誘致等に力を入れております。

交通網とすると、結局中国というのはご承知のように広いもんですから、長春と延吉というところでも大体400キロ。それと琿春、これは皆さん方もご承知のちょうど北朝鮮とロシアを境にしたところでもありますけれども、延吉は空港がありまして、そこまでも大体100

キロ離れております。高速道路が来年の10月に開通すると言っておりましたから、そういう点で物流がもし可能になってロシアの港を活用できれば、本当に短い距離で物流が始まるなど。特に長春は自動車関係、トヨタでありますとかホンダでありますとかそういう工場がたくさんあります。第一汽車、汽車というのは自動車のことでありますけれども、そういう会社がちょうど長春に初めてできたということで、非常に自動車関連の会社が多いところでもあります。そういう点で、向こうに進出しておりますトヨタの企業の皆さん方もいろいろお話もさせていただきましたけれども、やはり今まで大連まで回るとするのは非常に遠いというようなお話の中で、そういう航路が仮にできると非常に価値はあるなどという話をしておりましたけれども、具体的にじゃ船会社がここがやるという話がまだ出ておりませんので、これからもいろいろと調整をしながら、そういう船会社がちゃんとしたものが見えてくるように努力していきたいというふうに思っております。

ただ、新潟ともいろいろ試験運航ということもやったようではありますが、うまくいっていないというふうな情報も聞いているところでありまして、そのあたりを十分に見きわめながら、私どもとして、行政としてどういうことができるか、また民間としてどういうことができるかしっかりと精査をして、実現に向けて今後努力していきたい、このように思っているところでございます。

そういう意味で、「港湾力で切り拓く日本海新時代」をテーマに今度シンポジウムを開きますので、また記者の皆さん方もお時間ありましたらお聞きになっていただきたい、このように思うところであります。

同じく、またこれは外国からのお客さんでありますけれども、姉妹都市でありますナホトカの親善使節団がまいります。11月22日から29日まででありますけれども、敦賀のほうには4泊か、もしくは3泊の予定で訪問されるところでございまして。ただ私どももナホトカとの関係で、琿春なども見たんですけれども、非常にやはり距離が離れている。ウラジオストックまででも400キロぐらい、ナホトカになりますと、そこからまた180キロですから500キロ以上琿春から離れるということでありまして、なかなかあそこは、ロシアのほうは高速道路とかそういうものはまだできていないのが現状でありますし、やはりまだ極東地域ということで、私も何度かナホトカを訪問しましたけれども、まだまだそういうインフラ整備は遅いなということも感じております。そういう意味で、今回の航路の中でナホトカが入ってくれば、私ども姉妹都市という立場の中で非常にいいんですけれども、これは極めて難しいなということを感じております。

そういうことは抜きにしまして、市長初め、市議会議長などが訪問をいたしますので受け入れたい、このように存じております。

次、4番目であります。

21年度の除雪計画でございます。私ども、いつも11月15日から翌年の3月30日まで除雪期間ということで、除雪計画を立てて実施をいたしております。そういう中では、敦賀市の土木協会、また管工事組合、造園業の皆さん方に委託をして実施をするところでございます。これは例年のとおり積雪が10センチに達した場合に出動し、できる限り通勤通学に支障の出ないような体制をとっていきたい、このように思っております。

ただ、今年の冬季の天気予報でありますけれども、また温暖化の影響でしょうか、余り降らないというふうに出ているんですが、こればかりは自然なので何ともわかりません。しかし体制だけはしっかり整えていきたい、このように思っているところであります。

次に5番目でございます。敦賀市景観百景の募集であります。私も今日聞いたときに、百景って、100も探すのは大変やでと言っておったんです。敦賀の中で。これはあくまでも名称であって、20でも30でもいいということでございますので。私も思い起こせば、気比の松原初め、いろんな港町の風情もありますし、いろんな自然なところもあります。そういうところを市民の皆さん方にご提案をいただいたり、また募集をかけて、ここがふさわしいかなということを検討して、また景観保全ということも非常に大事でありますので、そういうものはしっかり次の世代に残そうという意味も込めて、まちづくりにもあわせて、こういうものをつくっていききたいというふうに思っております。

募集をかけるところでございまして、また記者クラブの皆さん方にもお力添えをいただいで、ぜひいい敦賀市の景観百景を決めていきたい、このように思っているところでございます。

私のほうからは以上です。

【広報広聴課長】 ありがとうございます。

それでは、ただいま市長のほうから発表いたしました5項目について質問を受けたく思います。

最初に幹事社からお願いします。

【記者】 中国との定期航路ですけれども、来年秋にたしかターミナルが全部運用するんですよね。

【市長】 新港のね。

【記者】 新港の。基本的にやっぱりターミナル完成までには何とかしたいというお考えはあるんですか。

【市長】 そうですね。やはりターミナルの完成が秋ごろになりますから。ただ荷物が入ってくると、ガントリークレーンとかそういうものも設置していないと仕事しにくい点もあります。ただ、よほどの大きな船でない限りでは、今の松栄のほうでも対応はできますので、私どもとすれば、いろんな先ほど言いました船会社のこととかもありますので、早急に慌ててもできないことでもありますけれども、できるだけ早い時期にそういうものができるように努力はしている最中でありまして。

【記者】 じゃガントリークレーンも全部できた再来年でしたっけ、あれは。

【市長】 いや。来年中に。22年度中にできる。ひょっとすると来年の1月、2月になるかもしれません。

【記者】 それでは、例えば仮に定期航路ができなかったとすると、要は新しい施設ができて大きな設備も整っているにもかかわらず、新しい船が来ないという状況にもなる可能性もありますよね。だとすると、じゃ一体何のためにあれをつくったのか。単に川崎・松栄からあれを移すためのものかという、そういう批判も当然出てくると思うんです。ある程度目標を設定して、新しい港、新しい設備ができるんだからそれにあわせて新しい航路もつくるといふそれぐらいの決意がないと、逆にじゃあの新港というのは一体何なのかということになると思うんですが、そこら辺はどうお考えですか。

【市長】 おっしゃるとおりでありまして、やはり新港をつくるからには、船舶の大型化に対応できる実は港になっておりますので。今確かに週3便、釜山との航路があります。それだけであればもったいないわけでありまして、ぜひ私もいつも言っておりますけれども、今の中国航路も含めて、それと日本海には実は釜山から、またシンガポールから多くのアメリカ行きの大型の貨物がいっぱい日本海を抜けていっているんです。これは日本海を回ったほうが近いもんですから。そういう点で、そういう船が、例えば5万トンであれ6万トンであれ敦賀に寄れるという一つの港を持っていますので、そういうものが可能かということを含めて、今イスラエルの大使に会ったり、いろんなところでそういうお話をしておりますので。中国の航路ももちろんであります、やはり世界に開かれた港町ということを目指して私ども頑張っておりますから、ぜひそういう点では、今の既存に走っている韓国航路以外のやはり新航路をつくっていくということが一つの目標でありますし、それができないということは、あれだけの港をつくっていく私は値打ちがないというふうに思いますので、その完成に合わせながら、ぜひ新航路をつくるようにこれからも最大の努力はしていきたいと思っています。

【記者】 もう1点だけいいですか。

これに関連して、前原さんが港湾の集約化ということを書いていまして、いわゆる各地に点在していたやつを拠点みたいなところに集約していくと。そういう流れがあると、新しく敦賀を整備しても、こういった流れには逆行するんじゃないかと。要は民主党政権の動きに。そういうところに対しては、どういうふうにお考えを持っていますか。

【市長】 確かに前原国交大臣も、例の空港のハブ化で羽田というようなお話も出ていましたし、恐らく港湾も、これは前の政権のときからやはりスーパー中枢港ということで、ある程度絞りをかけてやってきたことも事実であります。ただ日本の場合ですと、どうしても島国でありますから周りが海、そして日本海側と太平洋側という一つの仕分けがございます。日本海側にはそれぞれの幾つかのポイントの港がありますが、やはり日本海側いけば新潟が半島の一つのつながり、そして私ども敦賀が関西と中京をにらんだ一つの位置づけにございますので、そのあたりをしっかりと国にも、また民主党の皆さん方にもア

ピールをしながら、先ほど言いました大型の船も寄れる敦賀の港というものをしっかりとPRしていけば、私は一つのミニハブみたいな形で利用できる港だというふうに確信をいたしておりますから、これからどどんいろんな点で民主党政権に対してもそういうことをPRしながら、推進をしていただくように願っております。

ただ、ようやくもうほとんど私どもの港はできかけておりまして、ただ第2期工事というのが実は残っておるんです。今は第1期工事が終わり、第2期工事の埋め立てもありますけれども、やはりそれは港としての実績をつくりませんと恐らく国も到底乗ってくれる話ではございませんので、今現在でき上がりつつあるあの埠頭を十分に活用して、そして利用があれば次のステップに行けるんじゃないかなというふうに思います。

【記者】 今の件に関連してですが、敦賀港を運営する三セクができますが、市長は社長に就任のご意思というか、どういうお考えなのかちょっと教えていただければ。

【市長】 私も敦賀にできる港でありますし、なかなか議会で答弁させていただきましたけれども、ああいう指定管理の場合、民間がやるのがふさわしいとは思っています。

実際、私どももいろんな公民館なり、きらめきスタジアムなり、民間に指定管理ということで出しておりますので、私は基本的には民がやるべきだというふうに思うんですけれども、やはり今そういう指定管理の会社として本当に緒に就くばかりでございますので、なかなかそういうことは難しいと。そこで全国的な例を見ると、水島港がそういう形で、たしか知事でしたかが管理者になっているところもございます。そういう観点から。今、福井県のほうでは条例で、知事がそういうものになれないような仕組みになっている関係で、敦賀市長にというお話もいただいています。これはいろんな条件を実は県のほうに提示をいたしておりますので、その条件がクリアできれば私は受けることは決してやぶさかではないと。港の発展のためになることであれば、しっかり取り組むのも私の一つの使命でございますので、そういうところをご理解いただきながら、仮にそういうことにまた決定されれば、港の発展のために一生懸命やりたい、このように思っております。

【記者】 今おっしゃった条件というのは、言える範囲で教えていただいてもよろしいですか。

【市長】 やはりあくまでも港湾管理者は県でありますので、その会社というのは恐らくそううまく最初から軌道に乗ることは難しいと思うんです。そうしますと、いろんな財政的な負担、これは敦賀市長がやっているんだから敦賀市にもと言われましても、それは港湾管理をしている県の方でしっかりとやっていただく。そういうことをやはり条件にしております。あとございますけれども、そういうあたりであります。

【記者】 それから、三セクはいつ立ち上がる予定でしたでしょうか。

【産業経済部長】 近々発起人会が開催されるというふうに聞いてございます。その通知はまだいただいておりませんけれども、近々ということであろうと思われまします。

【記者】 あと1点、先ほどの市長のあちらの視察されたお話の中で、新潟との試験運航がうまくいってないという話をされていたんですけども、何か理由は聞かれてこられましたでしょうか。

【市長】 いや、新聞を見て知っただけでありますから、そういう情報があったということでありまます。

【広報広聴課長】 それでは、各社質問ありましたら挙手をお願いしたいと思います。

発表事項についての質問を受けたいと思います。

【記者】 防災情報受信機のテストなんですけど、実際に訓練みたいな、人を、例えば流れて、一回避難活動してみようというのとかはやってみるんでしょうか。

【市民生活部長】 それにつきましては、去年、学校、保育園等でやったときには、ある学校では同時にやったということはちゃんと話は聞いておりますが、今回やることについての避難とかそういうものについての、あわせては考えはございません。

【記者】 景観百景募集のやつなんですけれども、これは、こういうところを残したいとかそういうのを募集して、例えばその後何かに、例えばホームページに載せたりとかして、こういうところがあるよとか、観光PRみたいなことに使っていくとかという予定はあるんでしょうか。

【建設部長】 今、敦賀市は独自の景観条例を制定して、それで施行をしております。今、景観法に基づきます景観条例に移行したいという考え方を持っております、その景

観法に基づく景観行政団体というところの指定とかを申請するに当たって、敦賀市全体の計画書を作成しなければなりませんので、そういったところに反映させていきたいというふうに考えております。

【記者】 今の景観百景のことで続きなんですけれども、こうした募集というのは今回初めてでしたかというのと、それから応募の資格については、例えば敦賀市民だけじゃなくて、別に他県の人とか、特に制限は設けないのか。あとその計画書をつくられるとおっしゃいましたけれども、そのほかに何か寄せられたものというのはどこか発表する場というのは設けられるのかという、その3点をお聞きします。

【建設部長】 このPR方法等につきましては、全戸回覧でお願いしておりますのと、広報つるが12月号でやっていきたいと。それからRCN、ホームページで広くそういったところの写真とか情報をいただきたいというようなことでして、敦賀市民のみならず、敦賀に勤めておられる方々につきましても、いろんなこの場所がいいよというような情報を我々にいただいて、それをまた整理していきたい。今後またそういった表彰とかいろんな部分につきましては、それも踏まえまして、今後いろいろ考えていきたいなというふうに思っております。

今回は初めてでございます。

【記者】 中国の視察なんですけれども、今回、商工会義所の方と一緒にいかれて、民間サイドの方の意識を高めるといふか、そういう狙いがあったか。民間サイドの活動を活発化させるという狙いがあったかと思うんですけれども、そのあたりで成果はいかがだったでしょうか。

【市長】 そうですね。積極的に民間の皆さん方も、先ほどの交通網はどうであるか、給与体制はどうであるか、労働力はどうであるかというようなことも積極的に質問されている方もいらっしゃいましたし、また個別にある企業を訪問して行かれた方も、別行動で行かれた方もいらっしゃいましたから、相当やはり関心を持っているなということも感じました。また、向こうの皆さん方、日本の企業が進出しているところが結構ありましたから、そういう皆さん方との情報交換もしっかりやっておったようでもありますので、そういう点では、民同士のいろんないい情報交換ができたんじゃないかなというふうに思っています。

【広報広聴課長】 ほかにございますでしょうか。

ないようですので、次第の3番目フリーの質疑応答に移りたいと思います。

これも最初に幹事社のほうからお願いします。

【記者】 敦賀駅舎ですけれども、新幹線の認可がこういう状態になって、一度議会にも幾つか案を出されましたよね。ですけれども、現実的に認可がだめなら当然市の負担になるということなんですけれども、とりあえず次の議会にある程度、予算を上げなきゃいけない面はあると思うんですが、一方で、やっぱり次の議会に上げていると、12月の年末までに新幹線の認可というところが多分間に合わない状況だと思うんです。そこら辺を踏まえて、これから次の議会までに駅舎についてどういう予算計上をしていくのかということについてどうお考えですか。

【市長】 おっしゃるとおり、今、新政権になりましたから、前の政権は敦賀までの認可を今年中にたしか出すというようなお約束をいただいたんですが、政権がかわってしましまして、そのあたりは不透明なところが多くなったことは事実であります。

ただ、実は近いうちに前原国交大臣に県知事初め関係の皆さん方とお会いしまして、敦賀の駅部の認可、そして福井駅までの認可をとということで直談判に行く予定でありまして、そのあたりの結果も見なくてはなりません、駅舎は当然バリアフリーをやらなくてはなりません。これは法律の時間内に行いたいというふうに思っておりますので、今しばらく、そう遠い時期ではありませんので、そういう大臣等の話し合い、また対応などもしっかりと見きわめて判断していきたいなと思います。

【記者】 それと追加で、議会に対してと、あとそれから例の策定委員会に対しては、どういうふうにされるお考えですか。

【副市長】 駅周辺整備の検討委員会に今までの経過、あるいは現在の状況における説明ということである必要があると思っておりますので、今月の18日に駅周辺整備検討委員会を開催させていただきます。その後に、しかるべき速やかに議会に対しても、そういう結果等を踏まえて、今後の経過等の特別委員会でも説明させていただくという形になります。

【記者】 今のことにも関連するんですが、今度知事が前原さんに会われるのは、民主党内の制度ができる前に申し込んでいたので特例だというふうに聞いているんですが、民主党が陳情窓口を党に一本化して、これまでみたいな省庁への陳情というのができない状態になっているんですけども、そこら辺、市長として懸念とか、やりにくいとか、そこら辺あれば教えていただきたいんですが。

【市長】 今までも、私どもよく行く場合に自民党のほうに行きまして、いろんな調査会なり、そういう先生方とお会いをし、そしてその足でまた省庁にも行っておりましたので、窓口が一本になるということは、逆に言うと一回で済むという大変ですが。ある程度党のほうで、これはここへ行けという指令が出ればそのとおり行きますので、これはもう決まったら決まるとおり行動はとっていききたいなというふうに思います。ぜひ、戦略局も福井にできましたので、そういうところを順番を通して、順序よく陳情活動をしていきたいなと思います。

【記者】 幹事長に上がるまで、何かステップがあるみたいですがけれども、上がっていく基準とかもよくわからないというような状況のようですがけれども、そこら辺いかがですか。

【市長】 私もまだその手続を踏んで行ったことがないものですから、実際どうなるかということとははっきりわかりませんが、一度そういうステップを踏んで、ぜひこれはもう大事な問題であると、特に新幹線の問題等も大事な問題でありますから、市、県、関係自治体あわせて、もう間もなく第1回目があるので、そういう状況を見きわめて、またどういうふうに対応したら一番いいのかということとは私どもとしても探りながら、いい形で党に、またそれぞれの省庁に認められるように頑張っていきたいなと思います。

【記者】 前回の衆議院選から、選挙区では自民党の方が上がり、民主党で上がった方からちょっと不満みたいなのも出ますが、県の民主党の戦略局とどうやっていくのか。そこら辺ちょっと教えてください。

【市長】 これは戦略局ができましたので、戦略局に対して、順序よく説明をして粛々とお願いに行きたいと思っています。

【広報広聴課長】 それでは、各社、質問を受けたいと思います。

質問がありましたら挙手をお願いしたいと思います。

【記者】 敦賀1号機ですがけれども、次の議会で判断するんですか。

【市長】 これは私どもだけではできませんし、県と歩調を合わせながら適切な時期に判断したいと思っています。

【記者】 一応議会の意見も聞いてということをおっしゃっていたと思っただけで、それは県知事もそうなんですけれども、議会の意見という意味では何らかの議会としてのレスポンスが出てくるのかなど。レスポンスというものはないにしても、ある程度議会としてはこう判断しますみたいなのが出てくると思うんですが、ある程度そこを踏まえたそのポイントということになるわけなんですか。

【市長】 例えば、このことは議会はどう思いますかということはないと思うんですけども、やはり今までの質問、私に対する質問とか、議会の中でいろいろな議論の中を総合的に判断したいと思いますけれども、私もまだ、今度、原懇がありますから、原懇の中でまた事業者、国のほうから説明を受けますので、まずそれを聞いた、最低でもその後の適切な時期になると思います。

【記者】 僕、去年、原懇の後に、たしかもんじゅの燃料の事前了解を出したということに対して、去年すごい批判的に言った記憶があるんです。原懇で批判的な意見が出た翌日に、たしか事前了解を出したんですよね、もんじゅの。

【市長】 記憶にないです。

【記者】 たしかそうだったと思うんですけども。いわゆる原懇の話聞くというのはその時も言ったんですが、単なるアリバイづくりなのかということもあって、特に去年みたいに原懇で話を聞いて、翌日すぐ事前了解みたいなのになると、結局それは単なるアリバイなんじゃないかということも、去年そういう質問を僕はしたんですけども。今、原懇の後の適切な時期とおっしゃったのは、ある意味、原懇をアリバイ的に聞くという意味ではないですよね。そこはちょっと確認したいんですけども。

【市長】 全くそういう意味ではございません。

原懇は原懇で、市民の代表の皆さん方の率直な意見を聞いたりお話を聞きますし、当然

その場で国なり事業者もすべて説明がありますので、そういうものを踏まえたいというふうに思います。

適切な時期ですから、いつとは言えませんが、県とともに判断していかなくてはならぬ時期でありますし、知事のほうからは12月議会もあるしねとかいう話も出ていますから、そういうあたりでは、原懇は恐らく明日か明後日じゃなかったですかね。適切な時期に判断します。

【広報広聴課長】 各社ほかにありますでしょうか。

【記者】 敦賀1号機の話で続きなんですけれども、新聞なんか載っている概算要求で40年を超える高経年化に対して自治体に、今度敦賀市にとかに対して1億円の交付金を。あれは決定したわけじゃないですけれども、そういうことになりました。

決まるか決まらないかは別として、市長としては、そういうものがやって来ることに対して、何らかの形で手当みないな形のこと前回、前々回と言っていたんですけれども、1億円、額が小さい大きいは別にしながらも、どうお感じになっていますか。

【市長】 確かに40年超えて1億円というお金も一時聞きましたけれども、今はまだいろんな見直し作業もいよいよ11日から始まるということでもありますから、どうなるかわかりません。

基本的にいくと、40年を超えて1億円で、はい終わりというのは、ちょっと残酷かなというふうには私は感じています。やはり超えればずっと41年、42年、43年と続いていくわけでありますので、そういう点からは、心配はそうはないというふうには思いますけれども、でも不安というものは必ずつきものでありますので、そういう点ではできればやはりある限りは、そういうものが地域振興としてついてくるのが本来じゃないかなというふうに思っていますので。そういう点では、そういう形でそういうものは交付されたほうがありがたいなと思います。

【記者】 楡曲のごみ処分場のことなんですけれども、先日市内で開かれた会議で、また新しいごみが見つかったということなんですけれども、いまだにこういう時期にこういうのが出てくるということを考えると、今敦賀市のほうでも搬入自治体との交渉を進めておられますけれども、こういったものに対する影響というのは、その辺どうお考えですか。

【市長】 やはりもっとしっかり調査をして、そういうものが新しく出てくるということは、また遮水壁などにも影響が出ますので、そのあたりはきっちりやって欲しいなという気がします。

金額的にどういうふうになるかというのは、ちょっと今わからないんですけれども、やはり搬入した自治体とのいろんな話し合い、これから具体的にいよいよ詰めに入る時期に近づいていますので、金額について、そう大幅なことではないというふうに思いますが、ある程度そのあたりについては県でほうでやっていただいて、搬入した自治体に新たにこういうことがわかったのでこの分またというのは、非常に私どもとしては言いにくい話ですので、そのあたりはやはり調査をされた県が責任を持ってその部分については対応していただければいいなというふうに思います。

ぜひ、そういういろんな交渉に支障の出ないように。ようやく参入された自治体の皆さん方も、自分たちもある程度非もあるので協力しようかなという今いい時を迎えていますから、そういう信頼関係を崩さないような形で、ぜひ県にはしっかり対応して欲しいなというふうに思います。

【広報広聴課長】 ほかに質問ございますか。

ないようでしたら、これで11月定例記者会見を終わりにしたいと思います。

本日はどうもありがとうございました。

【市長】 ありがとうございました。

午後2時9分 終了